

ウォーターガイド工法

【概要】

- 既存のコンクリート構造躯体目地および打継ぎ部などの箇所に溝を作り、伸縮性の良いクロロプレンゴム製ガイド（導水板ゴム）を取り付けた導水工法です。

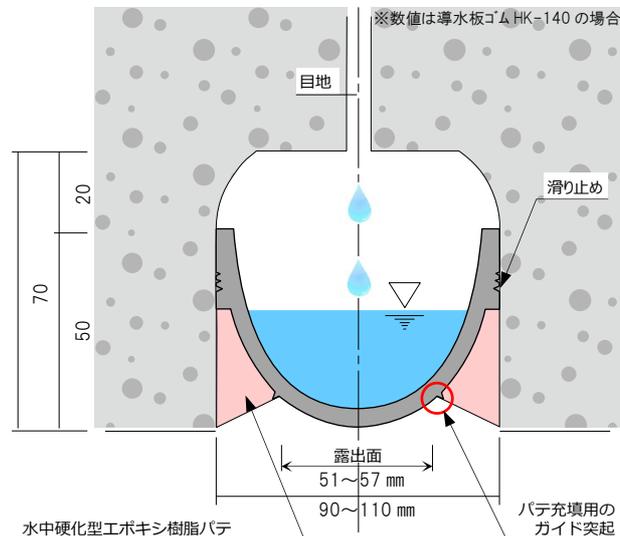


【開発の背景】

- 従来の導水工法は、目地の「ひらき」や「縮み」に対しての追随性は良いものの、「ねじれ」に対する追随性が悪く、耐久性が低いものが多いという問題点がありました。

【特長】

- ①完成した導水路断面の水中硬化型パテは「くさび構造」であるため、非常に高い水圧にも耐えられ、耐久性も向上します。
- ②くさび構造に導水板ゴムを挿入した形状で、「ねじれ」に対しても非常に追随性がよくなっています。
- ③暴露面積が少なく、かつ、クロロプレンゴムを用いているため、寒冷地のトンネル内でも凍結の心配がありません。
- ④極寒冷地のトンネルで導水内の水が凍結した場合でも、水の氷結による膨張にも十分耐えられます。
- ⑤クロロプレンゴムが51～57mm程度露出するため、一筋のラインがトンネル内に走り、美観が良くなります。（※数値は導水板ゴムHK-140の場合）



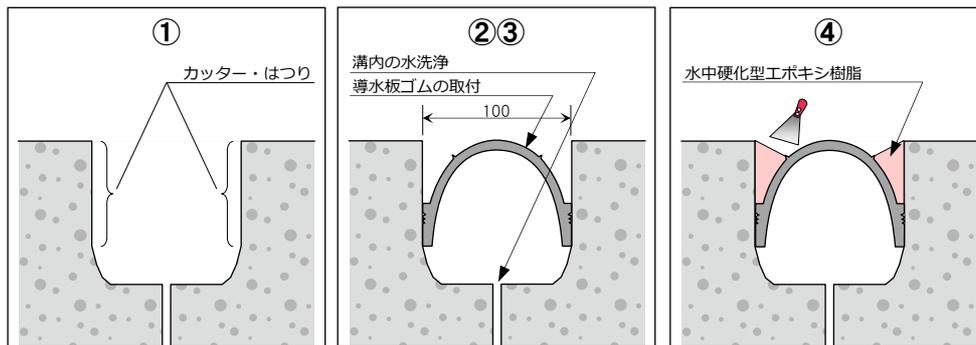
【適用範囲】

- トンネル
- 函渠工
- 地下構造物等の漏水部、目地部、打継部

【他工法との相違】

- 面導水工法は、漏水が面状でその量が比較的小さい場合に用いられる導水工法で、防水板を用いる工法と防水シートを用いる工法とに分類できます。

【施工手順】



①カッター・研り工

- マーキングに沿って幅 90～110mm、深さ 70～80mm の溝を作ります。溝側面に凸凹ができた場合はケレン等を行い、なめらかな状態に仕上げます。（※数値は導水板ゴム HK-140 の場合）

②洗浄工・断面修復工

- 高圧洗浄機等を用いて溝を水洗いします。研り取った脆弱部分の断面欠損を修復します。

③導水板ゴム設置工

- 導水板ゴム（HK-130、HK-140）を U 字に曲げ、溝にセットします。

④エポキシ樹脂パテ充填工

- 水中硬化型エポキシ樹脂パテ（ジェームス B-007）を、溝と導水板ゴムの間に壺型を形成するように充填します。

※ ウォーターガイド工法は、国土交通省 新技術情報提供システム（NETIS）に登録されている技術です。（NETIS 掲載期間は 2014.10.17 で終了しています）

旧 NETIS 登録番号：No.KK-060032-A

【問い合わせ先】

- 株式会社ホーク

大阪本社 大阪府枚方市菊丘町 9-55

TEL：072-861-5555 FAX：072-861-5522

E-mail：osaka@hork.co.jp

関東支店 神奈川県横浜市中区北仲通 1-6 ヒタチビル 5F

TEL：045-222-0050 FAX：045-222-0051

E-mail：kanto@hork.co.jp